

会計情報は社会でどのように使われているのか

授業内容

皆さんは、財務諸表や決算書という単語を聞いたことはありますか？これは、企業が「今年はいくらの黒字でした」と公開する成績表みたいなものです。もちろん、赤字の場合もあります。このように、企業は会計情報を作成し公開しており、会計情報は、投資家、銀行、従業員、国、地域住民等とのコミュニケーションに使われています。本講義では、身近な企業の事例を紹介し、会計情報が社会においてどのように使われているのかを解説いたします。会計学を学ぶと、無味乾燥な数字だと思っていた会計情報の裏に、実はドラマがあるということに気づきます。そしてその数字は、企業の血と汗と涙の結晶であることがわかります。このような、会計学を学ぶ楽しさをお伝えいたします。



高崎商科大学
短期大学部
講師 廣瀬 喜貴

この講義で身につくこと

会計情報が社会でどのように使われているのかを知ることによって、会計学を学ぶ意味が分かります。また、会計学は単なる数字の計算ではなく、エキサイティングな学問であるということが理解できます。

<専門分野>
会計学

所要時間

1時間